

JOMF 派遣医師便り (2012. 12)

◆マニラ◆

マニラ日本人社会におけるインフルエンザ流行パターンと薬について

マニラ日本人会診療所

菊地 宏久

マニラにおけるインフルエンザの流行パターンは日本の流行パターンと異なっています。今回は少しでも皆さんの感染予防に役立てばと思い、マニラでのインフルエンザ流行状況について話します。

皆さんはすでに何度もお聞きになっていると思いますが、まず“インフルエンザ”の話です。

インフルエンザは患者さんの手・くしゃみ・咳などを通して接触感染や飛沫感染でウイルスが鼻・口・眼などから侵入します。その後気道で増殖し、1-2 日間の潜伏期間のあとに突然の高熱、悪寒、関節痛、頭痛などの全身症状が起こります。多くは呼吸器症状を伴いますが、発熱だけが症状として出ている患者さんもいます。症状が発熱だけの場合には Dengue 熱との鑑別が困難な患者さんもいます。一部の患者さんでは肺炎や脳炎に進展し死に至る場合もあります。

日本では年間に数百万人~1 千万人以上がインフルエンザウイルスに感染し、死亡数は年間 1 万人前後と推定されています。これほど多くの方々がインフルエンザに罹り、死亡しておられます。

一般に我々日本人はインフルエンザの流行は「寒い乾燥した冬の時期」に起こると思っています。しかし当地マニラでは日本の夏（当地の雨季）に大きな流行が起こります。Dengue 熱の流行時期とも重なります。今年 2012 年と昨年も雨季の 8, 9 月に大流行しました。例年では 11 月にはインフルエンザの患者さんがほとんどいないのですが、今年は 11 月になっても患者さんが継続的に受診しています。

また、ここマニラの日本人社会ではもう一度流行する時期があります。日本人社会特有の流行形態なのかもしれませんが、1 月、2 月にも流行が起こっています。これには正月前後に日本へ一時帰国する日本人の行動様式が関与しているのではないかと考えています。帰国前後の体調管理も非常に大切です。

最後に治療薬についてです。近年、注射薬を含むさまざまな抗インフルエンザ薬が開発され日本では使用されていますが、マニラで調達可能な薬は現時点では Oseltamivir（タミフル）のみです。しかも限られた薬局でしか購入できません。

ワクチンは十分に供給される状況にはありませんが、毎年定期的に接種することも大切です。接種時期や回数については皆さんの年齢や行動様式、合併症の有無などを考慮しな

がらアドバイスしています。詳細は主治医と御相談ください。
皆さん、お体を大切にしてください。(2012年11月29日記)

心肺蘇生講習会 “世界に一つだけの命” 開催のお知らせ：

第10回「心肺蘇生講習会」を行います。
心肺蘇生用の人形を使って実習をします。
AEDの使い方も学びます。

-
- ・日時：2013年1月26日（土曜）、13時30分～15時30分
 - ・場所：日本人会診療所待合室にて
 - ・テーマ：「世界に一つだけの命」
家族が、お子さんが、周囲の人が突然心肺停止を起こしたとき、
あなたにできることがあります！

以前参加された方もぜひご参加ください。動きやすい服装でいらしてください。
(日程が変更されることがあります。参加ご希望の方は事前に御確認ください。)

日本人会診療所電話：02-818-0880